

「求む新鮮力―道内大学アメフト部の新勧作戦」③北海学園大

とにかく新生としゃべる

好天に恵まれた4月24日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンドのラグビー場に北海学園大の新生男女36人とアメリカンフットボール部員50人余りが集合した。アメフト部恒例の新生歓迎運動会。3月末から始まった新入部員勧誘作戦にひと区切りをつけるビッグイベントだ。赤、青、黄、緑の4チームに分かれ、部員の先輩後輩を見分ける〇×クイズから始まり、尻尾取り、二人三脚リレーなど盛りだくさん。勝ちが決まると部員と新生が一緒になって喜び、防具を付けたアメフト部員のぶつかり合いのデモンストレーションでは新生から興奮の声が上がった。勧誘長の濱谷昂生君（3年）は「勧誘のこつは、とにかく新生としゃべること。アメフトはコミュニケーションのスポーツですから」と顔をほころばせた。

お家芸のパス攻撃で2020年、21年と道学生選手権を連覇した北海学園大。20年にはパインボウルで東北大も下し、関東1部の慶応大と対戦した。しかし無念の大敗。部員数100人以上の慶応大の数の力にも圧倒された。関東を倒して甲子園ボウルへ進むためにチーム力に厚みの重要さも実感した。今年のチームは、7人の先輩が抜けて選手は4年生11人、3年生8人、2年生11人の計30人、スタッフ13人でスタート。新生の勧誘は選手20人以上、スタッフ10～15人を目標に始まった。

入学式前からSNSでチーム紹介を開始。ポジション別の動画もアップした。4月第1週からは、メインの履修相談会とアメフト体験会をセットにして新生たちを呼び込んだ。屋内体育館で楯円球のキャッチボールを行い、その横では上級生たちが大学生のノウハウを伝授した。「お勧めの授業の『芸術論』など、歴代の教え通りに新生に助言しました」と濱谷勧誘長。気さくな先輩と道内2連覇中の実力に、新生の野原寛生君（滋賀・長浜北高出身）と清川翔生君（札幌厚別高出身）は「優しい先輩と練習の厳しさにひかれた」と声をそろえた。24日の運動会までに、選手10人、スタッフ4人が入部を決めた。

濱谷勧誘長は「去年はコロナの影響で、履修相談会はズームだけだったが、今年は対面でできた。分からないことだらけの新生なので、直接会って聞きやすい関係をつくる必要がある」とコミュニケーションの重要性を強調した。そして「毎年20人ずつ新入部員が入ってくれたら、チーム力の大きな底上げになる」と長期戦略も見据えた。



腕相撲の熱戦に参加者の歓声が上がった新入生歓迎運動会